大阪市教
2026年 2月5日
VOL. 632
発行 大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-18(大阪市教育会館7階)
TEL 6910-8700 FAX 6910-7990

教職の魅力向上言うなら 処遇改善、少人数学級実現を

働き方改革ビジョン

大阪市総合教育会議（11月25日）で、「教職の魅力向上方針（案）」及び「学校園の働き方ビジョン」が示されました。

人材流出 離職に危機感

「本市における課題」（表参照）―①5年連続で教員採用試験受験者数が減少するとともに、競争倍率も低下傾向。②離職率。定年ではない普通退職が増加傾向にあり人材の流出が懸念される。③本市教員の精神疾患による休職者の割合は高止まりの状況。

事務局は離職に危機感を示し、教職員の3分の1が「風通しの良い職場環境」で否定的回答であることを課題としました。業務量に給与が見合わないと6割が回答しています。

魅力向上方針(案)では、「これまでの働き方改革による取組」として、①長時間勤務の解消、②ワークライフバランスの確立、③職場の風通しがよく、職場に起因するメンタル不調が発生しにくい環境づくり、としました。「働きがいを高めるための取組」として、①心理的安全性が確保された中で、貢献感とやりがいを感じられる職場風土改革、②多様な個性とキャリアプランに応じた人材育成、③高い専門性と役割に応じた魅力ある処遇、としました。

参加した中学校長が、定年延長・再任用の給与水準の引き下げ、教育委員がマレーシアからの教員研修留学生の声に基づき長時間勤務の問題をあげました。横山英幸大阪市長は、学校の教員の環境整備、大阪市としても全力で取り組んでいきたい、と述べました。

研修強化 パワハラ重大

教職の魅力向上を言うなら、「定額働かせ放題」の給特法を改定し残業代支給が必要です。教職員定数の改善・少人数学級を直ちに実現すべきです。若い教職員に対する研修強化・パワハラは重大です。人事評価制度の廃止が必要です。

大阪市総合教育会議（25年11月25日）
議題３「教職の魅力向上方針」及び「学校園の働き方ビジョン」等の策定について

○教員の欠員未補充数（３月１日）
離職率（普通退職数・率）

年度	2021	2022	2023	2024	2025
欠員未補充数	82人	79人	89人	76人	51人
普通退職者数	168人	218人	233人	272人	270人
普通退職率	1.9%	2.3%	2.5%	2.8%	2.8%

○教員の休職者率

年度	2023	2024	2025
大阪市	1.05%	1.39%	1.11%
全国	0.64%	0.71%	0.77%

教育職員の精神疾患休職者の割合

ガーベラだより

子どもの笑顔 頑張ろうと思い溢れ

この1年間で、教員採用試験や授業の進め方、児童との関わり方等多くのことを学びました。ですが、子どもとの関わり方や授業の基本など、学ぶことが多く残ってます。6年生は卒業の時期が迫り、それ以外にも参観等で3学期も忙しい日々です。日々他者と手を取りあって協力していくことが何よりも重要だと感じました。

子どもの笑顔や少し学校全体が見えてきたのもあって、できることが増えて来ました。基礎基本を教えてくださる先生や、子どもに助けられている自分。そして組合の方々にも感謝を忘れてはいけないと思って今も仕事を続けています。

正規の職員と同じ仕事量を抱えながらですが、校務分掌としての役割等も何とか理解し始め、1人の職員として日々試行錯誤を続けています。その中で、心や体が疲弊することは当然だと思います。かく言う私もまだまだ仕事には慣れず、夜遅くまで残ることもあります。しかし子どもの笑顔を見ると頑張ろうと言う思いが溢れてきます。

台湾 日本植民地50年 反省し平和的解決を

日中友好協会大阪府連合会は1月24日新春学習講演会を開き、大西博京都大学・慶応義塾大学名誉教授が『『台湾有事』を起こさないために』と題して講演しました。

日中共同声明は「中華人民共和国政府は、台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であることを重ねて表明する。日本国政府は、この中華人民共和国政府の立場を十分理解し、尊重し、ポツダム宣言第八項に基づく立場を堅持する」となっている。ポツダム宣言が履行するとしているカイロ宣言には「清国人より盗取したる」台湾を中国に返還するとしている。

台湾が「国」のようになってしまった原因としての「日本植民地50年」を認識し、再度アメリカと一緒に戦争をけしかけることはあってはならない。過去に罪状のある日本として考えなければならない。

中国の関心は「台湾の平和統一」。軍事的威嚇が逆効果だった過去の総統選、福建省省長だった習近平の経歴も重要。

台湾議会 軍事費増を拒否

トランプは台湾にGDP比10%の軍事費を要求。しかし、台湾議会はアメリカの要求を拒否した。

大西氏は、台湾の民主主義がほぼ有効に機能している、それを前提に、「統一」の新たな枠組みの提案が必要と述べました。例えば、従来の「一国両制」に加え「外交権を持つ特別自治区」など。独自の軍を持たないが、それ以外は殆ど「国」と変わらない自治区。

侵略への深い反省の上に平和的解決の努力を求めたい。

たんぽぽだより 2月

人事考課の自己評価の入力が終わり、順番に面談が始まった頃かと思います。

後輩の青年に「こんな数値目標（上位区分は相対評価）を始めたのは維新政治だよ」と伝えると「知りませんでした！」と驚いていました。

今の青年は、人事考課制度や「運営に関する計画」による〝数値目標があるのが当たり前〟の学校現場しか知りません。

「こんな些細な数値の変動で子どもの成長は測れない」と分かっていても、一方で数値にビクビクしてしまう気持ちだってあります。

周りの目を気にして、子どものためではない指導をしてしまうこともあるかもしれません。

その「失敗しないように」という圧力は先生だけでなく、子どもにも降りかかっています。「安心して失敗できる」ゆとりのある学校を取り戻したいです。

文化のつどい

城北

1月10日に「第39回文化のつどい」を開催し、老若男女31人が参加して楽しいひとときを過ごすことができました。

支部長挨拶の後の分会交流では現場の中での大変さにため息や共感の声も。「すぐできるホームケア」では体操やマッサージ講習。体のこわばりがとれて全身リフレッシュ。後で希望者にマッサージもしてもらいました。

メインは昨年に続いてプロマジシャンのさくらさんの楽しいショーと講習。空の紙袋から次々とお菓子や缶コーヒー、瓶詰め海苔の佃煮まで出てくる不思議。教室で簡単にできるマジックも教わることができました。

集まり交流することで元気をもらえ、明日からも頑張ろうと思えました。

新年会

大教済加入

東部・東南

東南・東部支部は1月23日、「新年会」を天王寺で開催し、未組合員を含む20人が集いました。

会は若手の司会と乾杯で始まり、一人ひとりが今年の抱負や職場の様子を報告し合いました。

参加者の出し物では、キャラクターを揃えるパズルや簡単な手品をして楽しみました。また、自作の歌の生演奏も披露され、聞き入りました。さらに、「ゴジラ対モスラ」と題しての出し物は、アイデアに満ち爆笑を誘いました。

参加者は食事や飲み物を楽しみながら交流を深め、最後に全員の一丁締めで会を閉じました。

嬉しいことに大教済加入者も増えました。職場では組合員が少ないところが多い中で、このような交流の場はとても貴重な機会であり、大好評でした。